

# 昭和前期 女性文学論

A5判・上製 五二二頁  
定価 四二〇〇円＋税

林美美子 ◆ 岡本かの子 ◆ 宇野千代 ◆ 尾崎翠 ◆ ささきふさ ◆ 中本たか子  
平林たい子 ◆ 佐多稲子 ◆ 八木秋子 ◆ 宮本百合子 ◆ 小山いと子 ◆ 牛島春子 ◆ 川上喜久子  
森三千代 ◆ 田村俊子 ◆ 大田洋子 ◆ 阿部静枝 ◆ 野上弥生子 ◆ 真杉静枝 ◆ 岡田禎子  
中河幹子 ◆ 辻村もと子 ◆ 原阿佐緒 ◆ 大谷藤子 ◆ 吉屋信子 ◆ 網野菊 ◆ 矢田津世子

## 新・フェミニズム批評の会 編

私たちは忘れない！

書くことが女にとって解放とともに呪縛となった「あの時代」を

関東大震災からアジア・太平洋戦争へ。  
激動の時代に、女性作家はどのように生き、何を表現したのか。

翰林書房

〒151-0071 東京都渋谷区本町1-4-16 初台ガイアビル4F  
TEL.03-6276-0633 FAX.03-6276-0634 <http://www.kanrin.co.jp>

.....きり線.....

ISBN978-4-87737-401-3

昭和前期女性文学論

新・フェミニズム批評の会 ( ) 冊

注文書

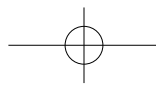
お名前

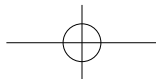
お電話番号

ご住所

〒

お取り扱い書店





3・11以降の、戦後七〇余年を経た危機的な「今」、  
あらたな視点で問い直す。忌まわしい過去を再来させないために  
女性文学研究最新の成果、必見の論集！

# 新・フェミニズム批評の会 編 『昭和前期女性文学論』

## I 関東大震災以後のモダニズム

方法としての〈放浪記〉―林芙美子『放浪記』の時代☆岩見照代  
岡本かの子『帰去来』―関東大震災へのまなざし☆近藤華子  
宇野千代『老女マノン』までの軌跡  
―モダンガールとしての女給の肖像☆藤木直美  
『途上にて』―ナジモヴァの「サロメ」と「私」☆溝部優美子  
さよさぶと「春浅く」と「ある対位」  
―モダニズムとフェミニズムの視点から☆江黒清美  
岡本かの子とスポーツする女性たち☆漆田和代  
戦時下のタカラジェンヌ☆渡辺みえこ

## II プロレタリア文学―労働・闘争・抵抗

中本たか子〈前衛〉たらんとして  
―その密かなる抵抗「赤」・「鈴虫の雌」から「新しき情熱へ」☆渡邊千恵子  
平林たい子にみる〈愛情の問題〉  
―ロマンティック恋愛論とハウスキーパー問題を通して☆岡野幸江  
佐多稲子における戦前の女性労働争議の描かれ方  
―「女工もの五部作」を視座に☆矢澤美佐紀  
アナキズムと女性文学―八木秋子の場合☆松田秀子

## III 帝国の〈外地〉と〈内地〉

一九四〇年前後の女性文学  
―宮本百合子・牛島春子・小山いと子における〈抵抗の諸相〉☆北田幸恵  
牛島春子『祝といふ男』と氷壺中国語訳『祝廉天』  
―「満洲文学」の力学と真相☆鄭 穎  
川上喜久子  
―植民地の支配秩序を通じて問う言語と女性の主体性獲得の問題☆乾智代  
森三千代の「東南アジア」小説  
―「国境」の先駆性☆小林富久子

女性作家のアジアへのまなざし  
―帝国主義日本の植民地・半植民地支配とその表象☆長谷川啓  
「従軍慰安婦」☆但馬みほ

## IV 戦争とジェンダー

戦争と女性文学☆渡邊澄子  
日本文学報国会☆武内佳代  
阿部静枝の短歌はどう変わったか  
―無産女性運動から翼賛へ☆内野光子  
野上弥生子「哀しき少年」論―少年が見た戦争☆羽矢みずき  
佐多稲子「分身」論―一つの祖国のはざまに☆伊原美好  
宮本百合子「杉垣」にみる反戦表現  
―国策にあらがう〈居掘り組〉夫婦☆岩淵宏子  
銃後―利用された言葉の力☆和佐田道子  
真杉静枝の小説「深い霧」と女系の絆  
―福島から戦地へ☆高良留美子  
岡田禎子〈フェミニスト〉の翼賛  
―「正子とその職業」から戦時ルポルターージュ・戯曲へ☆中島佐和子  
大日本婦人会☆橋本のぞみ

## V 女性文学の成熟と展開

〈母性〉の歌領域を拓く―初期中河幹子の歌の再発見☆阿木津英  
辻村もと子の農民文学―自分を生きる女たち☆菊原昌子  
昭和初期の原阿佐緒―自立の歌への挑戦☆遠藤郁子  
大谷藤子「須崎屋」論―母子結合の夢の崩壊☆小林裕子  
吉屋信子「良人の貞操」論―那子の築いた〈王国〉☆小林美恵子  
網野菊「妻たち」の位置☆沼沢和子  
矢田津世子の文学的中核―「痴女抄録」を中心に☆山崎真紀子  
昭和前期の女性文芸雑誌☆永井里佳  
昭和前期女性文学論年表☆設楽舞

